

ハレルヤ！4月、5月とチア・オフィスへの問い合わせがとても多く、感謝しています。来るコンベンション、ぜひ、ご参加をお祈りください。「情報やチャンスを活かす」ことの大切さを最近も教えられていますので、分かち合わせていただきます。

「良い情報」を取り入れることは大事です。聖書で「すべての真実なこと、すべての誉れあること、すべての正しいこと、すべての清いこと、すべての愛すべきこと、すべての評判の良いこと、そのほか徳と言われること、称赞に値することがあるならば、そのようなことに心を留めなさい」(ピリピ4:8)とされている通りです。オリンピック選手を育てた青木誠一さん(74)との出会いも与えられ、改めて「良い情報」を取り入れる必要性を思いました。

ナイキの大ヒット商品を30年前に提言していたコーチ 日本陸連や大手メーカーが失った代償

9ヶ月前、次男ジョセフ(10)の野球練習が始まり、走り方をしっかり教えたいと思い、20冊ぐらいの本を読みつつ、練習を始めました。良きコーチの指導も受けたいと思い、神様をお願いしていましたら、与えられました。

1月に、6年生の試合を他の4年生たちと共に外野席で見学・応援していました。そこに6年生チームの監督のご両親が来られ、席を譲りました。話していると、監督のお父さんは市民マラソンチームのコーチとのこと。いつも練習している運動場に、短距離チームのコーチで、布団屋さんの青木誠一社長がおられるとのことでした。連絡をしてお店に伺ってみました。

青木誠一社長は74歳。布団の綿ホコリの影響等で30代で喘息となり、健康のために、独学で陸上を始められたということです。競技に出られたのは37歳が初めてでした。走法を研究しながら大会に出て、メダルもたくさん取られました。その後、子どもたちへの指導を始めたところ評判を呼びました。右代啓祐選手もその一人です。右代選手は、アジア大会で2度の金メダルに輝き、ロンドンオリンピックでも活躍、リオオリンピックでは旗手を務めた十種競技のアスリートです。青木社長が4年あまりコーチン



上：ロンドン・リオオリンピック等で活躍した十種競技の右代選手が見出した指導者、青木誠一コーチ
下：青木コーチを大きく報道する新聞各紙。「つま先走法」「歩幅を拡げる」等への注目はなかった

グシ、ロンドンオリンピック後、100mは0.18秒、400mは1秒12秒短縮と、結果を出しました。